



新宿山吹だよりは、保護者の皆さんにも読んでもらって下さい。

## 科学と新型コロナウイルス

校長 永浜 裕之

今回は、未知の経験である新型コロナウイルスに対応するための「社会の動き」に関することを書きます。皆さんは、話を鵜呑みにすることなく、「自分ならこう考える」という姿勢で読んで下さい。目の前にある事象や情報を鵜呑みにせず、「それは本当に正しいのか」という疑問を持ち、じっくり考察した上で結論を出す、いわゆる「クリティカルシンキング」を実践してほしいと思います。

さて、新型コロナウイルスへの対応では、まず、ウイルスに対する自然科学の知見があり、その知見を基に、政治が対策を決定し、私たち「社会」が対策結果を受け入れて来ました。私は、「自然科学の知見」、「政策を決定する政治」、「対策を受け入れる社会」の3者の関係を、以前はとてもしびつに感じていました。

科学者が客観的な事実やリスクを評価し、それをもとに、政治が判断を下すことが、科学と政治の関係です。この関係がうまくいくことは多いのですが、うまく機能しない例もあるように思います。

新型コロナウイルス感染防止の手段は「濃厚接触を断つこと」であり、科学者、いわゆる専門家の見解は一致します。

そのため、自宅で巣ごもりが求められましたが、経済活動に深刻な打撃をもたらしました。そこで、感染リスクをある程度許容しながら、経済活動を再開しています。

唐突ですが、交通事故による死者を減らす手段として、「車を運転することを禁止する法律」を制定したらどうでしょうか？これは、「車を運転させなければ交通事故は起こらない」という極論で、新型コロナウイルス感染予防対策における「濃厚接触根絶」も、似たような極論だと思います。

こういった問題では、専門家と政策決定者の間で、十分議論することが必要だと考えます。

当初は、自然科学の知見に関する報道が先行し、専門家の見解が、あたかも政策のように捉えられた時期がありました。専門家と政策決定者の間で十分議論ができておらず、「濃厚接触を断つための生活が政策である」と捉えられた時期があった気がします。6月に専門家会議が、自身の活動について「前のめり」、「政策を決めている印象を与えた」などと総括する報告書を公表したことで明らかだと思います。

しかし最近では、専門家会議と政府の関係がうまく機能しているように見受けられ、政策決定に合わせて、専門家の提言がなされているようにさえ感じることもあります。

大切なことは、科学の知見をもとにした現状認識を政治が引き取り、政治が責任を持つことだと考えます。学校における感染症対策も、同様の流れで行っています。

難しい点は、「科学の不確実性」です。

科学は、「研究仮説を立て → 分からないことを調べ → 仮説の誤りから正解を見つける」営みです。現状では分からないことも多く、専門家が言っていることすべてが正しいという保証はありません。

科学者が正確な答えを出すには相応の時間が必要ですが、皮肉にも感染状況は待たないです。「この状況下での科学者の助言は暫定的な助言である」と社会は受け止め、安易な批判は避けるべきだと思います。

科学技術が生活に定着した現代社会では、科学が政治や社会と切り離されなくなり、互いに交わる領域が増えていると感じます。アメリカの原子力工学者「アルビン・ワインバーグ」は、この領域を「トランス・サイエンス」と呼び、「そこで生じる問題は、科学だけでは解決できない」と論じていることも紹介しておきます。

「すべてが止まったのなら、すべてを見直すことができる。」とは、フランスの哲学者、人類学者「ブルーノ・ラトゥール」の言葉です。

コロナ禍は、現代社会を大きく変える契機になることは間違いありません。この先、どのような社会に変えていくのか、私たち一人一人が当事者意識をもち、考えていくべきだと思います。

## 未来をみつめて学びのドアを開け続けよう

通信制課程 副校長 松木富美代

10月3日に前期の定期試験のすべての予定が終了しましたので、レポートの受付を再開します。締め切り日を過ぎているレポートも受け付けます。

「レポートの提出方法がわからない」、「問題が解けない」という生徒は、一人で悩まず、気軽に通信制職員室（03-5261-9729）へ電話してください。対面や電話による学習指導を行っています。

例年この時期は、今年度卒業予定の生徒が、進学や就職に向けての相談や準備のために、通信制の職員室を訪れています。日々の一つ一つの積み重ねが、単位修得や卒業、その後の進路に繋がっていきます。

スクーリングのある土曜日には、スクールカウンセラー、3人のコースソーシャルワーカー、東京都から派遣されたNPO法人「キッズドア」の学習支援スタッフも、皆さんの登校を待っています。

学習支援スタッフの方には、昨年度は2階のラウンジで皆さんの学びの支援をして頂いていました。今年度は、場所を1階のガイダンス室に移し、より学習に特化した支援をして頂くことになりました。

「レポートの分からないところを教えて欲しい」、「受験勉強をサポートして欲しい」という人は、誰でもスクーリングがある土曜日にガイダンス室のドアを開けてください。現在のところ、予約は不要です。



## 三味線で「さくらさくら」を演奏しよう

通信制課程 高橋由美子

- |                        |        |
|------------------------|--------|
| 10月31日（土）総合的な学習の時間進行予定 | 場所 体育館 |
| 13:00～長唄、鼓、笛のお話        |        |
| 13:20～観賞 操三番叟          |        |
| 13:30～三味線のお話           |        |
| 13:35～三味線体験            |        |
| 14:05～「さくらさくら」発表会      |        |
| 14:15～観賞 菖蒲浴衣          |        |
| 14:25～質疑応答             |        |



通信制では、部活動に「日本舞踊部」を置き、日舞を通して日本の伝統文化に触れる機会を生徒のみなさんに提供してきました。

今年度はさらにその機会を拡大し、10月31日（土）13時00分～14時30分に実施する「総合的な学習の時間」において、長唄、鼓、笛、三味線の専門家を5名招いて日本の伝統文化の観賞とワ

ークショップを開催いたします。

三味線のワークショップでは、その持ち方、構え方をお稽古します。お稽古の後には、みんなで「さくらさくら」の演奏体験となる楽しい企画を用意しています。

「三味線を見たことも触れたこともない」、「三味線を習っている、習っていた」という生徒のみなさん、大歓迎です。

専門家の先生の演奏を直に観賞し、体験できる貴重な機会です。総合的な学習の時間を選択している生徒の皆さんは、是非、参加してください。

観賞、ワークショップ共に体育館で行います。床にヨガマットを敷き、その上に座っての受講となります。正座ができないという生徒は、事前に高橋まで申し出てください。

なお、受講者は全員体育館履きを持参して下さい。

### 定時制課程 学校行事予定

- 10月10日（土）～13日（月）期間休業  
 14日（火）後期授業開始  
 第2回指定校・公募推薦入試校内申請締切り  
 20日（火）自己探索学習⑤  
 22日（木）健康講話（①10:40～、②13:30～  
 ③16:20～ /各会場）  
 27日（火）保護者面談オープンディ  
 （14:00～16:00/相談室）

### 通信制課程 学校行事予定

- 10月3日（土）レポート受付再開  
 10日（土）後期スクーリング開始  
 14日（水）学習状況通知発送